

ゆたんぽによる低温やけどに注意しましょう！



ゆたんぽを身体と同じ部分に使用し続け、低温やけどを負った事故が発生しています。

【事例】

プラスチックのゆたんぽを使用して寝ていたら、右足のかかとの内側が2 cm 大の水泡になっており、低温やけどを負った。



写真 ゆたんぽによる低温やけど
出典：NITE(独立行政法人製品評価技術基盤機構)
※写真は実際の事例とは関係ありません。

低温やけどとは？

低温やけどは、心地よく感じる程度（体温より少し暖かい温度）のものでも、皮膚の同じ部分が長い時間接触していると発生するやけどです。低温やけどは、皮膚の深いところまで達することがあり、見た目より重症の場合があります。

低温やけどを防ぐために

- 布団が暖まったら、ゆたんぽを布団から取り出しましょう。
- 身体と同じ部位に触れ続けないよう、時々、ゆたんぽを当てる位置を変えましょう。
- 付属や市販しているゆたんぽカバーを使用し、その上から厚手のバスタオルや布で包みましょう。



※ 必ずしも低温やけどを防げるわけではありませんが、低温やけどを生じるまでの時間は長くなります。

低温やけどかなと思ったら？

万が一、**皮膚の変色や痛み、違和感**などの異常を感じたときは自分で判断せずに、**すぐに皮膚科等専門の医療機関を受診**しましょう。

参考：製品安全協会 ゆたんぽの検査マニュアル



詳しくは→消費者庁ウェブサイト
<問合せ先> 消費者庁消費者安全課
TEL：03 (3507) 9200

